

京都 Re-Search

京都：Re-Search とは

京都府では、地域の人々が主体となって芸術文化活動に関わる環境づくりを促進するとともに、地域の持つポテンシャル・魅力をアート視点から引き出すことにより、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与する取組として、アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search」に取り組んでいます。

in 舞鶴

平成28年度は、舞鶴市において、短期アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search in 舞鶴」を実施します。「京都：Re-Search in 舞鶴」は、8月22日から9月5日の15日間にわたり、舞鶴市内の古民家《宰嘉庵》を拠点に、京都府内で活動するアーティストはもちろん、ほかの地域で活動するアーティストも舞鶴に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、舞鶴の風土や歴史等の調査を行います。舞鶴での発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、その記録をデータ化するプログラムです。

アーティスト・イン・レジデンスとは……

- 芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら作品制作を行わせる事業のこと
- アーティストの育成や支援だけでなく、空き家・商店街の空店舗を活用した地域振興や人の交流による地域活性化の役割も求められている

主催：舞鶴アーティスト・イン・レジデンス実行委員会

問合せ先

舞鶴アーティスト・イン・レジデンス実行委員会 事務局

住所：602-8570

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

京都府文化スポーツ部文化交流事業課内

電話番号：075-414-4279

Eメール：bunkakoryu@pref.kyoto.lg.jp

ワークショップスケジュール

WORKSHOP SCHEDULE

① 8/22(月) 17:00~ ガイダンス in「FLAT+」

(京都府舞鶴市平野屋123)

ガイダンス1:タイトル「アーティスト・イン・レジデンスの活用と可能性」

小田井真美(さっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター)

ガイダンス2:タイトル「アーティストにとってリサーチとは」

藤浩志(美術家/秋田公立美術大学教授)

② 8/23(火) 8:00~ フィールドワーク in舞鶴市内&「FLAT+」

講師とのフィールドワーク(全員参加)+各自のプレゼン&アドバイスアートプロジェクトや作品プランを組み立てて行くためのヒントとなる、舞鶴市内の場所(現地)を講師の二人と実際に調査しながら巡ります。フィールドワーク終了後には参加者からのプレゼン、それに対する講師からの様々な意見やアドバイスをいただきます。
講師:藤浩志、小田井真美

③ 8/24(水) 15:00~ ワークショップ in「FLAT+」

ワークショップ1:タイトル「地域とアートプロジェクト」

鷺田めるろ(金沢21世紀美術館キュレーター)

ワークショップ2:タイトル「アートプロジェクトを“記録に残す”とは?」

齋藤歩(京都大学 総合博物館研究資源アーカイブ 特定助教)

④ 8/25(木) - 8/31(水) 各自リサーチ(計7日間)

⑤ 9/1(木) 13:00~ 参加者による講評会に向けた プレゼンテーション in「FLAT+」

⑥ 9/2(金) 15:00~ 講評会&活動報告展 in「FLAT+」

ゲスト講師:藤浩志(スカイプ参加)、小田井真美(スカイプ参加)、他

⑦ 9/3(土) - 4(日) 12:00~ 活動報告展 in「宰嘉庵」

(京都府舞鶴市平野屋69)

「宰嘉庵」にて、オープンハウスによる参加者の活動報告展を開催。

※実施期間中、上記プログラム以外は、各自の計画により舞鶴市内を調査し、アートプロジェクトや作品プラン構想を策定

講師プロフィール

PROFILE

藤 浩志 FUJI Hiroshi

美術家 /

秋田公立美術大学教授



1960年 鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇活動に没頭した後、地域社会を舞台とした表現活動を志向し、京都情報社を設立。全国各地のアートプロジェクトの現場で「対話と地域実験」を重ねる。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校勤務。都市計画事務所勤務を経て92年藤浩志企画制作室を設立。地域資源・適正技術・協力関係を活かした美術表現を試みる。主な作品として、取り壊された家の柱からつくられた「101匹のヤセ犬の散歩」。一ヶ月分の給料のお米からはじまった「お米のカエル物語」。家庭廃材を利用した「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「Kaeru System」。架空のキーパーソンをつくる「藤島八十郎をつくる」等。十和田奥入瀬芸術祭アーティストティックディレクター。

小田井 真美 ODAI Mami

さっぽろ天神山

アートスタジオAIRディレクター



1966年広島生まれ。2001年から02年まで、とち国際現代アート展デメテル事務局、03年よりNPO法人S-AIRに所属し、アーティスト・イン・レジデンス(=AIR)の運営、アートによる地域活性化事業、アーティスト・イン・スクールの企画、Sapporo2 Project(札幌の雪と除雪を考えるアートプロジェクト)のプロデュース。TransArtist(オランダ)で文化政策とAiRネットワークングについて研究を行い、アークスプロジェクト(茨城)ディレクター、コマンドNと共にアーティストの移動のためのポータルサイトMOVE ARTS JAPANに携わる。札幌国際芸術祭(SIAF)2014でチーフプロジェクトマネージャーを務め、現在は札幌市のAIR施設さっぽろ天神山アートスタジオ・ディレクター、AiR事業とその背景に係る調査研究が趣味。

鷺田 めるろ WASHIDA Meruro

金沢21世紀美術館

キュレーター

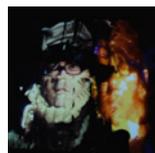


1973年、京都府生まれ。担当した企画で特に地域に関わるものに、アトリエ・ワン、島袋道浩、坂野充学の個展、「金沢アートプラットホーム2008」「3.11以後の建築」などがある。非営利の任意団体CAAK, Center for Art & Architecture, Kanazawaボードメンバー。2009年より非営利の任意団体Kapoと共同で「CAAK & Kapo Creators in Residence」プログラムを実施。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブメンバー。地域とアートプロジェクトに関する主な論考は「視点を生む、人をつなぐ」(『地域開発』521号、2008年)、「アートプロジェクトの政治学」(川口幸也編『展示の政治学』水声社、2009年)、「金沢アートプラットホーム2008(金沢21世紀美術館)/CAAK」(熊倉純子監修『アートプロジェクト』水曜社、2014年)、「鶴来現代美術祭における地域と伝統」(『金沢21世紀美術館研究紀要アール』6号、2016年)。

齋藤 歩 SAITO Ayumu

京都大学総合博物館

特定助教 / アーキビスト



1979年生まれ。京都大学総合博物館特定助教(研究資源アーカイブ系)。大学卒業後、編集事務所にて書籍やウェブサイト等の企画と編集に従事。その後2016年より現職。2011年からは学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻に在籍してアーカイブズ学の研究を進めている。研究テーマは「建築レコード Architectural Records」。論文=「建築レコードに関するアプレイザルの判断基準を分析する - 1970年代以降の北米の試みを対象に」(『アーカイブズ学研究』24、2016)、「アーキビストは書誌情報検索システムをどう活用しているか - 記述標準から考える」(『情報の科学と技術』66(4)、2016)、「アーカイブズのデジタル化がめざすもの」(http://www.ameet.jp/digital-archives/129/) (AMeET、ニッシャ印刷文化振興財団、2016)、「アーカイブズはなぜ斯くもわかりにくいのか - ヨーロッパ・ファッションから学ぶこと」(『vanitas (http://adachipress.jp/vanitas/)』4、2015)ほか。